

琉球大学学術リポジトリ

地域教材(琉球絃)を生かした中学校家庭科教育実践(1)
)-4つの動機づけの視点から-

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部 公開日: 2007-07-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 富士栄, 登美子, Fujie, Tomiko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/1175

地域教材（琉球絣）を生かした中学校家庭科教育実践（1）

－ 4つの動機づけの視点から－

富士栄 登美子*

Educational practice of home economics in a junior high school in Okinawa utilizing Ryukyus
Kasuri as teaching materials (part 1) :from the view point of 4 motivations

Tomiko FUJIE*

(Received November 4, 2005)

I 緒言

土地の風土や生活そして人間の暮らしの中から文化は生まれる。亜熱帯性気候で育った素材・色・文様から、沖縄の独自の文化を生み出し、美への追究の意志が琉球の絣文化と美を成立させた(富士栄 2005)。このことを踏まえ、筆者に残された課題は、琉球絣を地域教材として取り上げ、教育実践へと広げていくことであった。

琉球絣は人々の生活の中に自然にとけ込んでいく。しかし、地域に息づいているにもかかわらず、地域教材として家庭科教育の中で取り上げられることが少ないように思われた。

生活体験、自然体験、社会体験を重視する総合的な学習の時間は、体験の中から理解するという学習である。沖縄島南部の南風原町では、児童生徒に対する伝統工芸品教育事業も始まっている。そのひとつとして中学校では、2001年から職場体験実習を行っており、琉球絣の製作実習体験もあった。また、同町の南星中学校の制服の襟に絣の刺繍がなされ、学校の玄関の広場には、絣の布片がパネルになって160枚程展示され、「絣の広場」と呼ばれている。

家庭科教育の授業の中で、地域教材を取り上げることが、児童生徒に興味を起こさせ、関心を持たせ、理解を深めることに役に立つことが予想される。

しかし、動機づけとは、人を行動へと駆り立てるような原動力が内面に発生した状態のことであり、“motivation”はギリシャ語の“to move”から派生している(Chamberlain and Cummings 2003)¹⁾ことから、興味・関心があるだけでは、動くことにはならない。

新井(1995)は、授業の流れの中で動機づけ要因として、①態度、②欲求、③情緒、④コンピテンス、⑤強化の5つの要因をあげている。

本研究では、地域に生きる「琉球絣」を教材とし、動機づけ(Motivation)を学習者の内面に発生させるため、家庭科教育の授業の流れの中で、4つのモチベーションを設定した。a 初期的動機づけ、b 知識的動機づけ、c 意識的動機づけ、d 行動的動機づけである。

本稿は、教育実践の中で、地域の琉球絣について生徒たちの知識や関心がどの程度高まったかを、生徒たちの反応と4つの動機づけから分析することを研究目的とする。

II 絣の歴史と南風原町での琉球絣

1 絣の歴史

東京国立博物館所蔵の広東平絹幡(東京国立博物館 1999)は現存する世界最古の絣と考えられ、その時期については、推古天皇(592～628年)の頃(田中・岡村 1969)あるいは7～8世紀(山辺 1972)

*琉球大学教育学部家政教育専修

*Department of Home Economics, Faculty of Education, University of the

Ryukyus, 1 Senbaru, Nishihara, Okinawa, 903-0213, Japan

と推測されている。一方、小笠原(1992)は現存する更に古い緋模様として、5~6世紀のアスターナ出土の絹を紹介している。

琉球緋のルーツは、インドやインドネシアなど南方系であるとの説が一般的である(田中・田中1976など)。古くから南方との交易が盛んだった琉球からすれば、以上の説は考えられる。しかし、南方のイカット(緋)と琉球緋とは遙かに異なる様相を呈している。技術の伝播があったにせよ決して一方では無い。いつの時代にも風土が求める美意識が生まれ、独自の文化が成立する。

琉球緋に関する文献では、沖縄の古謡と呼ばれる『おもろさうし』(1531-1623)の巻10-12巻10-24に、緋模様を指す「綿雲」があり、阿波根(1970)は、それらの模様を緋模様の発生と関連づけて考察している。また1719年、冊封琉球国王副使として渡琉した徐(1766)は、『中山伝信録』の巻5の衣の頁に緋柄の衣を図示している。

日本に現存する琉球緋で古いものとして、江戸前期(17世紀)における徳川綱誠所用の縹麻羽織(徳川美術館所蔵)がある(神谷1983)。「緋が本格的な発展をとげたのは、江戸時代の中期以後のことで、その技術は、この時代に新しくおそらく沖縄あたりから伝えられたものではないかと考えられ」(山辺1972, 554)ている。

2 南風原町での琉球緋

土地の風土や生活そして人間の暮らしの中から文化は生まれる。文化は、美への惜しみない追求である。沖縄は、独自の緋文化を創り上げ、緋の美学を実現してきた。

現在、沖縄県で琉球緋の生産量の90%以上を占めている南風原町は、沖縄島の南部に位置してい

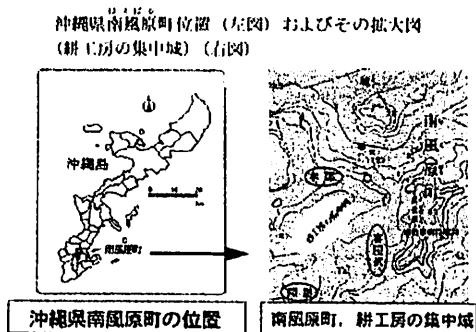


図1 南風原町に於ける緋工場の集中地

る。図1は、南風原町に於ける緋工場の集中地を示している。南風原町の、中でも喜屋武、本部、照屋の3つの字に集中している。

南風原町役場が出来たのは1998年で、その頃に製作された琉球緋のタベストリーが、役場の各受付の柱に今でも掛けられ、緋は南風原町の人々の生活の中に自然にとけ込んでいる。その内の一枚を図2に示す。東南アジア系のイカットとは異なり、透明感、清涼感、軽量感の美しさに感動する。琉球緋は、緋柄にその特徴があり、方言で言い表している。何枚かのタベストリーに使われている緋柄は、以下のとおりである。◎ミダヌー(三段) ◎ティーチブサー(二つ星) ◎ファナ・アーシー(花合わせ) ◎カキジャー(釣り針) ◎トウイグアー(千鳥) ◎トッチキピーマ(徳利)。

役場内の公衆電話の一角にもミニタベストリー(図3)が掛けられている。緋柄は、◎ファナ・アーシー(花合わせ) ◎ターチ・カマシキー(二ツ釜敷き) ◎トウイグアー(千鳥) ◎ヌチ・ヒチサギー(よこ引き下げ)である。

毎年秋に行なわれる「はえばる緋まつり」では、染めや緋織りの体験が出来る。図4は小学生が緋織を体験しているところである。少女の脇の下に見えている緋柄は、◎イン・ヌ・フィサー(犬の足跡) ◎イチチ・マルグム(5つの丸雲) ◎トウイグアー(千鳥)である。

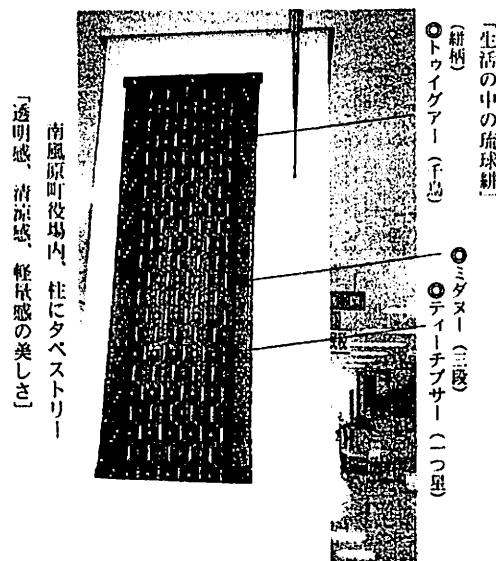
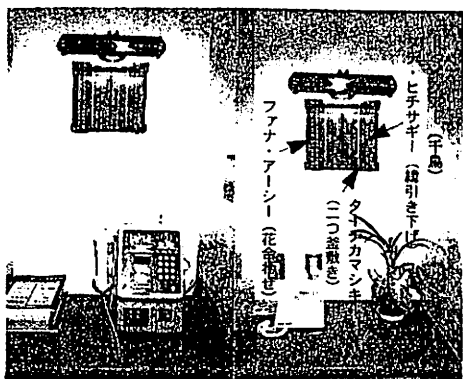
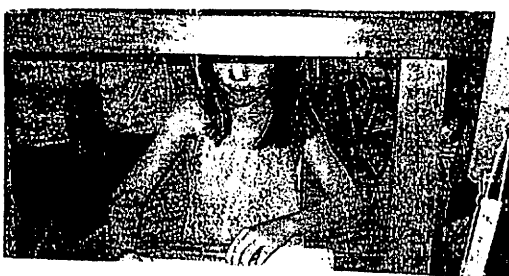


図2 南風原町役場内、緋のタベストリー



役場内公衆電話の一角に、ミニタベストリー



はえばる紺まつりにて
紺を織る少女

図4 南風原町の紺まつりにて、紺を織る少女

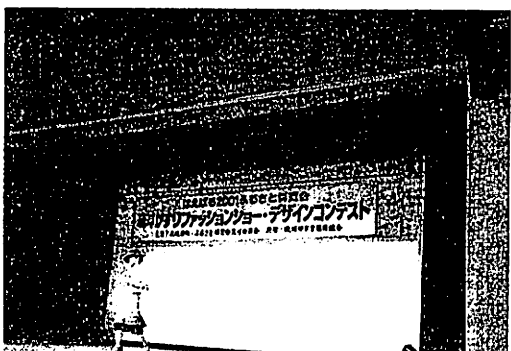


図5 役場のホールでのファッションショー

また、紺まつりでは、役場のホールを使って、ファッションショー・デザインコンテストがある(図5)。本物のモデルの後、第2ステージのモデルは、うちのお祖母さんであり、お祖父さんということもあって、客は家族連れで満員となる。ファッションショーをしている役場のホールへ、家族がカメラを持って入って行く。ホールのドアに

も紺の布が貼め込まれている。これらのことから、紺が人々の生活の中に浸透していることがわかる。

III 結果と考察

1 教育実践

与那原町立与那原中学校にて以下の授業を実践した。

日時	2003年12月12日(金)2校時
場所	被服室
学年	与那原中学校第3学年 (20名)
科目名	選択家庭
授業者	富士栄登美子

[導入]: 琉球舞踊衣装の実物を提示しながら入っていた。

[展開 (動機づけ)]:

①日本本土へ紺を伝えたのは沖縄であること
(初期的動機づけ: 図6)。

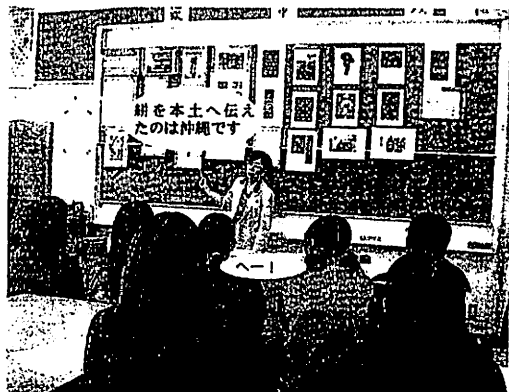


図6 初期的動機づけ

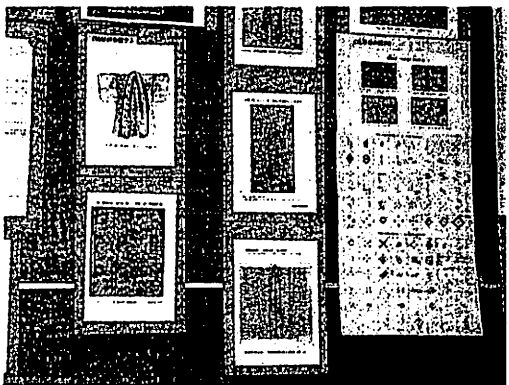


図7 知識的動機づけ

② 緋の歴史を調べ、琉球緋の美しさはどこからくるのか、本土の緋と何がちがうのかを知る（知識的動機づけ：図7）。

③ 緋の文様の意味を知る（知識的動機づけ）。大胆ではっとする美しい文様が琉球緋にあったことを教える。クワンカキー（図8）は、門構えの許された士族の屋敷などで使われていた門をデザインしたもので、この文様は、一般庶民には使うことは許されていなかった。

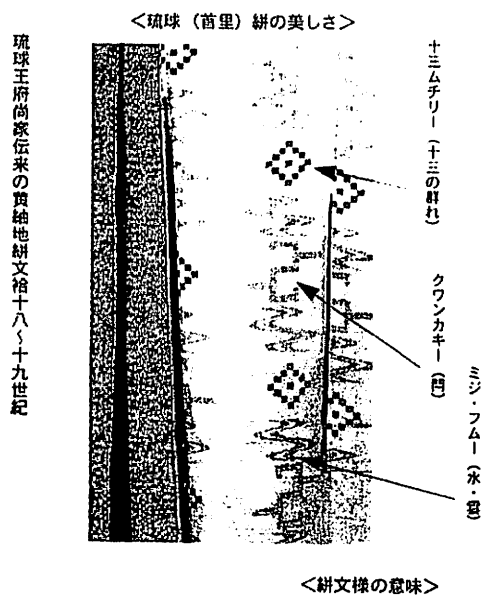


図8 琉球王府尚家伝来の黄軸地緋文袴
(出典：「尚家継承琉球王朝文化遺産展図録」筆者一部加筆)

④ 緋の図柄は、風土や生活の中から生まれ、緋文化を形成していった（知識的動機づけ）。

⑤ 伝えていきたい素晴らしい文化だと思い、いろいろな琉球の伝統に触れていきたいとの行動へと動き始める（行動的動機づけ：図9）。

⑥ 沖縄に住んでいる生徒が沖縄の文化に触れること、知ることの大切さを伝え、意識の高まりを狙ったレベルの高い意識的動機づけである（意識的動機づけ：図10）。

授業者の後ろのポスターの赤のシートには、琉球舞踊衣装に使われている緋の例をあげている。黄のシートには、現在使われている緋の例を示している。



図9 行動的動機づけ



図10 意識的動機づけ

2 考察

授業の展開①から⑥の中での動機づけと教育実践を行った後の生徒たちの反応は以下のとおりである。

- a 初期的動機づけ①・・・「本土に緋を伝えたのが沖縄というのがすごかった。」
- b 知識的動機づけ②、③、④・・・「沖縄出身の緋なので、もっと知りたい。」「沖縄に住んでいるのに知らなかったけれど、わかるようになった。」「生活の道具までが模様になると知ってびっくりした。」「緋柄は、生活の中から出ていることを知った。一番気に入ったのは、ミジフム（水雲）で綺麗だと思う。」
- c 行動的動機づけ⑤・・・「緋柄はどれも素敵だと思ったし、伝えていきたい素晴らしい文化だと思った。」「これから、いろいろな琉球の伝統

に触れていきたい。」

d 意識的動機づけ⑥・・・「沖縄には、このような綺麗な絣がたくさんあるので誇りに思う。」

各動機づけの教育実践によって、実践前は「見たことはある」程度であった琉球絣の知識や関心度は一定程度高まった。ただし、導入部での舞踏衣裳の実物提示は、初期的動機づけには効果があったが、行動的動機づけへとつなげるためには、中学生にとってより身近な実物提示（ペンケースなど）の方がよかったと考える。

本研究での教育実践は1回のみであるため、その後、本研究室の大学院生が引き続き地域教材を生かした家庭科教育の授業実践を数回行ない、授業効果をあげている。今後は、それらの研究も総括しながら、更に考察を深めたいと考える。

IV 謝 辞

授業実践をさせていただくために協力して下さいました与那原町立与那原中学校3年生（2003年度）「選択家庭」を履修の皆さんに感謝致します。

本研究は、2002年度平和中島財団国際学術研究助成・外国人研究者招致等助成金、2005年度科学研究費補助金（基盤研究C、課題番号17500509）の援助を受けていることを申し添えます。

本研究は、2005年6月25日、日本家庭科教育学会第48回大会にて口頭発表したものを修正加筆し、まとめたものです。

注1) 原文は以下のとおりである。

Motivation is a state created within an individual that propels that person to action. The term "motivation" is derived from a Greek word

meaning "to move."

引用文献

阿波根朝松, 『沖縄文化史』, 沖縄タイムス社, 沖縄, 1970, 552-554

新井邦次郎, 『教室の動機づけの理論と実践』, 東京, 金子書房, 1995, 32-33

Chamberlain, V.M. and Cummings, M. N., *Creative Instructional Methods for Family & Consumer Sciences, Nutrition & Wellness*, Glencoe/McGraw-Hill, 2003, 245

富士栄登美子, 「琉球絣の現在—その意匠と活用」, 日本家政学会誌, 56巻, 5号, 2005, 343-351

徐葆光, 『中山傳信録』, 平安書林文錦堂, 沖縄, 1766, 14

神谷榮子, 「徳川綱誠所用縞麻羽織について」, 『美術研究』, 324号, 至文堂, 東京, 1983, 30-36

小笠原小枝, 「絣」, 『日本の美術』, 309号, 至文堂, 東京, 1992, 1-80

琉球新報, 『尚家継承琉球王朝文化遺産展図録』, 琉球新報社, 沖縄, 1993, 63

田中玲子・岡村吉右衛門, 『服装大百科事典上巻』, 文化服装学院出版局, 東京, 1969, 136

田中俊雄・田中玲子, 『沖縄織物の研究』, 紫紅社, 京都, 1976, 291

東京国立博物館, 『法隆寺献納宝物図録』, 東京国立博物館, 東京, 1999, 255

山辺知行, 「絣」, 『世界大百科事典』, 平凡社, 東京, 1972, 545-555